

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

前回、大峯山寺本堂の戸開け式を紹介した。この「戸開け」という言葉は、野本寛一先生の調査によると、長野県伊那地方で、旧暦2月に初めて春の神を拝む日とされていた(民俗のことばで探る 遠山谷の環境と暮らしど)。一方、県内には広陵町筈尾に「戸立て祭り」があり、3台のダンジリが町内を巡回する。既に肌寒く、戸を開める頃の祭りなので、この名があるといわれるが、本来は神仏の拝する時期をめぐる言葉として用い始められたのかもしれない。

戸開け式の次には、金峯山寺蓮華会を見た。この法会で行われる「蛙跳

び」は既に紹介した(2016年7月6日付け本紙)が、翌日未明から、道々の拝所に蓮華を供えながら大峯山上に登る入峯がある。東南院に泊まり、午後9時ごろ就寝、午前2時に起床。さっそく朝食を取り、3時に藏王堂前で勤行をして、暗闇のなか100人あまりの人々と歩き始めた。雲天の空に月が鋭く輝いている。次第に空が明るくなる中、金峯神社から母子堂まで同行して、この日は下山した。

7月12日に再び出か



入峯する山伏たち。右の2人が蓮華を背負う
=2001年7月8日、筆者提供

神仏を拝する春

け、臺藏院から金峯神社に向かい、ここから大峯山に向かって歩く。午後0時半ごろ、百日回峯を行うドイツ人行者が、足早に自分の前を無言通り

臺藏院には、87年以来の毎年の奥駆満行者の数が掲示されていた。中井

御前が祀られている。この日は金峯神社まで戻り、この日は臺藏院に投宿した。

大天井ケ岳(1438m)に着く。山頂はヒグラシの声がし、トンボが飛んでいた。鹿が樹の皮を剥いで食べた痕跡もあった。この日は五番関まで歩く。途中体長十数cmのヒキガエルを見て驚いた。この日は五番関まで歩く。途中体長十数cmのヒキガエルを見て驚いた。この日は五番関トンネルに下り、龍泉寺でナデ石を見て、この日は帰路に就いた。

教善師が先達となり、順番・逆峯と奥駆ルートの方向を変えながら4泊5日で、毎年20人から40人が参加している。午前7時に起床して、昨日の最終地点から歩く。百日茶屋、小天井茶屋跡、大天井茶屋跡を経て、脣前に大天井ケ岳(1438m)に着く。山頂はヒグラシの声がし、トンボが飛んでいた。鹿が樹の皮を剥いて食べた痕跡もあった。この日は五番関まで歩く。途中体長十数cmのヒキガエルを見て驚いた。この日は五番関トンネルに下り、龍泉寺でナデ石を見て、この日は帰路に就いた。

(奈良民俗文化研究所代表) II隔週掲載